



街は新聞だ

なるへそ新聞本創刊

思い出はニュースだ

西成なるへそ新聞社(大阪市西成区)は24日同紙の創刊を祝した。西成区で芸術活動を展開するブレイカー・プロジェクトとの共同企画によって生まれたこの独自の新聞は、地域に住む人々の記憶を頼りに「西成の今昔」を新聞紙上に街の風景として再現して行く。一つ一つの記事は紙面上にある家や区画の様に扱われ、街の変化同様新しい記事を入れる際には古い記事を切り取って取り壊し、少しづつ時間をかけて記事が差し変わって行く。

この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「なるへそ記者」には報道腕と章とメモ等が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能。

なるへそ記者

「西成なるへそ新聞」は新規の記者を広く募集している。忘れられる事のない出来事、大きな戦事体験をすらすらと個人でデザインする。歴史の「ページ」となって行く現在、



この街に住む人々の生きて来た記憶が気づかない内に消えていってしまう前に、出来るだけ多くの方々から「なるへそ記者」には報道腕と章とメモ等が支給される。年間を通しての参加から、数回や一回限りでの参加も可能。

発行: 西成なるへそ新聞社
ブレイカープロジェクト実行委員会
発行人: 山田 亘
編集: ブレイカープロジェクト
山田 亘 村田 仁
図案: 村田 仁

ウェブ上で注目

ブレイカープロジェクトのフェイスブック上でも「なるへそ新聞」の注目が上がっている。キックオフイベント(3/24)のポストに対し、現在450名を超える「いいね」があり注目度が高まっている。

砂糖の山を登頂す

二十一日夜未明、米国より築港に着いた貨物船内で、高木進さん(23)が、砂糖の山の登頂に成功した。高木さんは船からの積み上げ業務に就いており、この日は船庭部の倉庫に精製前の砂糖が根をさすに粒のまま、山になって運ばれて来た。スゴップで山を切り崩していき、長い長靴のまま砂糖の上に乗るので、白い砂糖は黒く汚れる。「あれ見たら、もう砂糖食べられへんよ」と高木さん。甘くはない登山のようである。

NARUHESOを世界語に

十四日フランスで開催された国際デザインシンポジウムにおいて、なるへそ新聞プロジェクトが発表され、ユネスコ・クリエイティブシティネットワークワークに参加する代表者を選出する。大きな反響を得た「NARUHESO」でそのままとした、世界共通の言葉にしたいと発表者の山田亘氏は語る。新たな「西成なるへそ新聞」について、も多くの仲間がなされ、世界中から西成にも熱い視線が注がれている。



山田 亘さん

五時からメタボ

築港の船つき場で荷下ろしの仕事を終る男性の間では、港労働者の「メタボ」が話題になっている。同職場で勤務する男性は、細身の同僚が、仕事に来た時と帰る時で着ぶくれの具合が違っていたと述べる。

最近、船つき場で船搬された荷物の

盗難が相次いでおり、肥満化した男性との関係が疑われている。

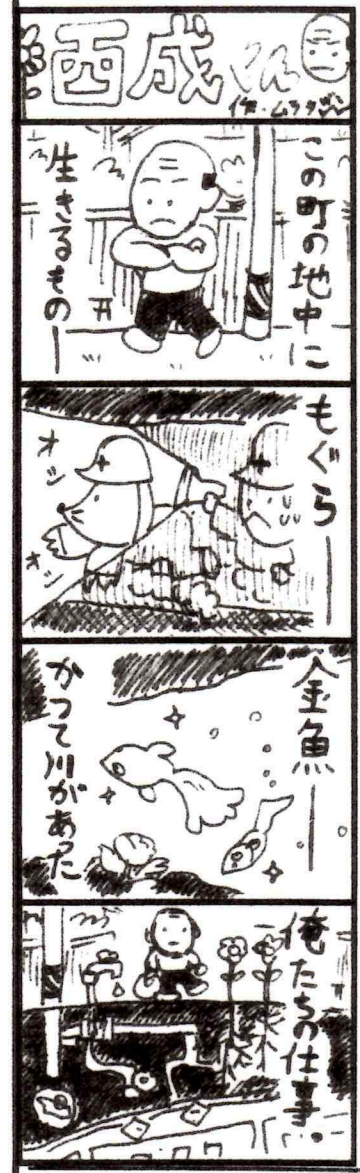
また、正月太りの男性労働者たちはあられぬ疑いをかけられ、困惑している。

デントに期待

西成区の北門通りで、向かいあう店や家に張ったワイヤーの本数が、150本以上に達することが、このほど分かった。

ワイヤーは日除けテントを張るために用いる。関係者は、真夏の暑い日の買い物客増を狙う。白の天幕が百メートルにわたり連なる予定で、商店主らは心待ちにしている。

北門通りでタバコ店を営む中本雅子さんは「手でデントを上げる」と語り、通りはかつて半分川だった。戦後は夜店も出て、深夜までそぞろ歩きでにぎわう。アーケードのような天幕は、一層の賑わいを期待を込める。



西成

この町の地中に

もぐら

人魚

わたしの仕事

未来



Kioku 手芸館
たんす
お家のタンスに眠っている
編み物を譲ってください。
山王1-11-5(元・鈴木タンス店)

大阪市現代芸術創造事業
ex・pots 2011-2013
Breaker Project
山王・飛田・太子・新世界
地域密着型アートプロジェクト
http://breakerproject.net